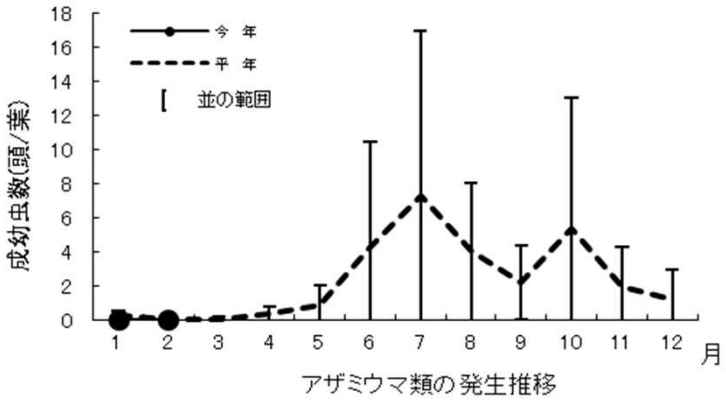
平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	① チャノキイロアザミウマ		
2 月の発生量（現況）	並		
3 月の増減傾向	→		
増減傾向の根拠	成虫・幼虫数の平年の発生推移から、２月と同程度の発生量だと考えられる。		

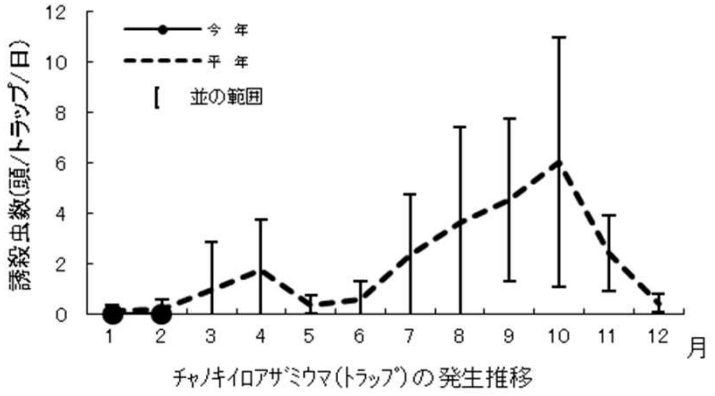
発生量の根拠（調査結果）

（見取り調査）



アザミウマ類の発生推移

（トラップ調査）



チャノキイロアザミウマ(トラップ)の発生推移

防除のポイント

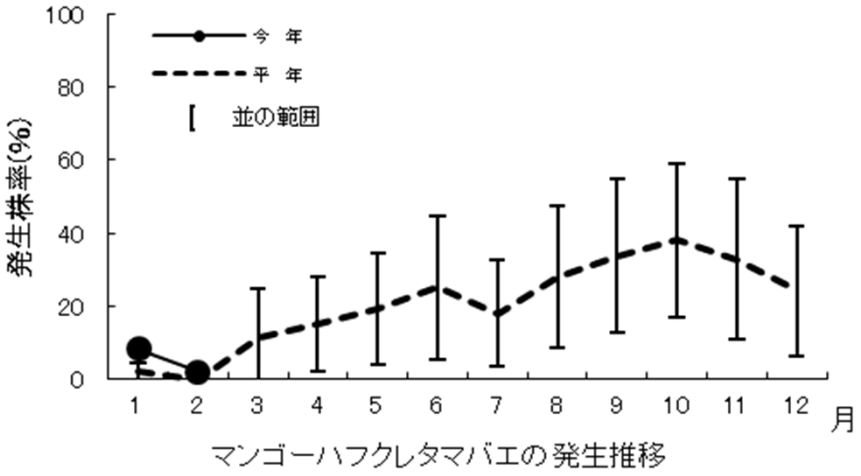
・開花期以降は本種が増加しやすいので、早期発見・防除に努める。
・開花中に薬剤散布を行う場合は、受粉昆虫に影響のない薬剤を選択する。
・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。
・コミカンソウ類など、発生源となる施設内外の雑草を除去する。
・不要な新梢は、施設外に除去する。

ナガエコミカンソウ

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	② マンゴーハフクレタマバエ		
2 月の発生量（現況）	並		
3 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	発生株率の平年の発生推移から、２月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）



マンゴーハフクレタマバエの発生推移

・ 発生施設率：12.5%（１／８）

防除のポイント

・幼虫は、新葉から新梢の軸までの柔らかい組織内に潜行して食害し、成熟すると飛び出し、地面に落下して蛹化する。

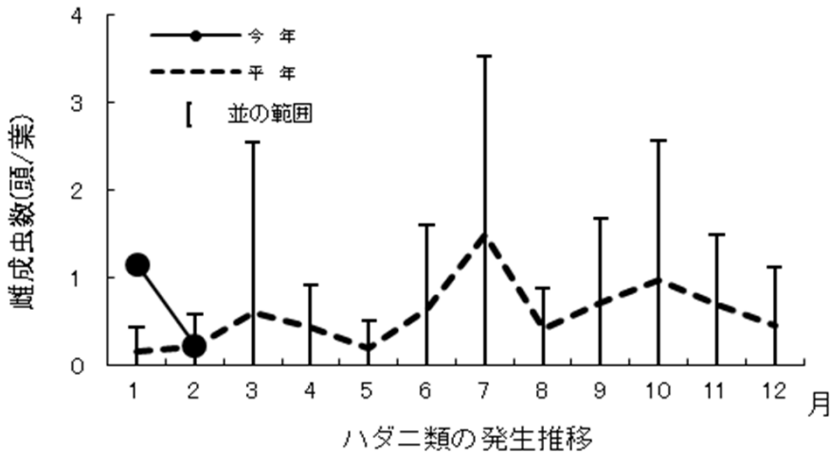
・不要な新梢は本種の発生を助長するので、早い時期に除去する。

平成　30 年度

作物	マンゴー	地域	沖縄群島
病害虫名	③ ハダニ類		
2 月の発生量（現況）	並		
3 月の増減傾向	↗		
増減傾向の根拠	雌成虫数の平年の発生推移から、２月より発生量は増加すると考えられる。		

発生量の根拠（調査結果）

（成葉における調査結果）



ハダニ類の発生推移

- 一部施設で多発した（雌成虫数：1.4頭／葉）。
- 発生施設率：３7.5%（3/8）
- 発生種：シュレイツメハダニ、マンゴーツメハダニ

防除のポイント

・薬剤抵抗性を発達させやすいので、同系統薬剤の連用を避ける。

ハダニの寄生による葉のかすれ症状